

パフォーマンス課題をどうやって授業に組み入れるか

——「現代の国語」「読むこと」のパフォーマンス課題を手がかりに——

沖 永 由 伸

一 はじめに

今年度から、高校の一年生の科目が「国語総合」から「現代の国語」・「言語文化」という新科目へと変わり、評価に関しても三観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）の観点別評価が導入された。そして、そのような学習評価の改善の動きの中で求められるようになったのが「パフォーマンス評価」ということになる。この「パフォーマンス評価」の定義について、西岡（二〇二〇）は次のようにまとめている。

パフォーマンス評価とは、知識やスキルを使いこなすことを求めるような評価方法の総称である。中でも、パフォーマンス課題は、様々な知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な課題を指す^①。

また、西岡（二〇一九）は、ここでの「パフォーマンス課題」の位置づけについても、以下のように詳しく言及している。

「筆記による評価」で最も単純なものが「選択回答式（客観テスト式）の問題」である。「筆記による評価」でやや複雑なものは、自由記述式の問題である。

さらに複雑になると、論説文やレポートなど、まとまった作品を求める課題となる。これを、パフォーマンス課題と言う。

…（中略）沖永…

パフォーマンス課題には、実演を求めるものもある。たとえば、プレゼンテーションや実験の実施を求める課題などである。…（中略）沖永…「実演による評価」のうち、より単純なものは実技テストである。理科を例にとると、一連の実験を計画・実施し、報告するのを求めるのはパフォーマンス課題、一定時間内に早く正確にガスバーナーを操作することを求めるのは実技テストと言えよう。さらに単純になると、発問への応答を確認

したり、活動の諸要素をチェックリストに沿って点検したりと
いった評価方法が考えられる⁽²⁾。

そして、このような「パフォーマンス課題」は「指導と評価の
一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校 国語）にお
いて「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価材
料の一つとして挙げられており、実際の授業場面においても「現代
の国語」「言語文化」では「パフォーマンス課題」を用いた評価を行
なっていくことが求められている。それでは、この「パフォーマンス
課題」をどう授業に組み入れていけば良いのか。この点について、
私が一学期中に試行錯誤しながら行なった「現代の国語」の実践を
基に考えていきたい。

二 パフォーマンス課題の実践報告

そもそも、なぜ「現代の国語」において重視されている「話すこ
と・聞くこと」「書くこと」ではなく「読むこと」なのか。それは未
知の領域である「パフォーマンス課題」に挑戦するにあたっては、
一番馴染み深い「読むこと」で行う方が取り組みやすいだろうと考
えたためである。今までの授業の延長線上にあるものとして「パ
フォーマンス課題」を位置づけてみたい。

(一) 「要約」を行うパフォーマンス課題の実践

【単元名】筆者の主張の変化を的確に捉えた「要約」を試みよう。

【教材】池内了「時間とは何か」（『新編 現代の国語』教研出版）

【学年・科目】普通科 一学年（三十六人） 「現代の国語」

【単元目標】

- ① 文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方、主張と論拠
など情報と情報との関係について理解することができる。【知識及
び技能】(1)オ、(2)ア
- ② 内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、
要旨や要点を把握することができる。【思考力、判断力、表現力
等】C(1)ア
- ③ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読
書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての
自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養
う。【学びに向かう力、人間性等】

【言語活動】

論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、引
用や要約をしながら論述したり批評したりする活動。C(2)ア

【単元の評価基準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方、主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。	「読むこと」において、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。	学習課題に沿って文章の要約を行うことを通して、積極的に論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握しようとしている。

【単元計画】

次	学習活動	指導上の留意点	評価基準・評価方法等
第一次 (二時)	・ 普段どんな時に「時間」というものを意識するかについて考える。 ・ 第一段落での筆者の主張を捉える。	・ 個人で考える時間をしっかりと取った上で、全体への発表の前にペアで意見を交流させることで、発言をしやすくなる。	評価基準・ 評価方法等
第二次 (二時) 四時	・ 第二段落～第四段落を読み、筆者の主張の変化	・ 言い換え表現や接続語、具体例と主張の関係な	【知識・技能】 【思考・判断・表現】(ノート、

を捉える。

観察法)

第三次 (五時)	・ パフォーマンス課題(要約)に取り組む。	・ 机間指導を行い、手が止まっている生徒などに声かけを行う。 ・ A・B・Cの三段階評価を付した上で、次時に返却し、フィードバックを行う。	【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】(パフォーマンス課題)
-------------	-----------------------	--	--------------------------------------

【パフォーマンス課題】

◆ 「時間とは何か」を次の条件に合うように二百字以内で要約してみよう。

条件1 「時間とは何か」という問いに対する解答の変化についてまとめること。

条件2 「しかし」「つまり」といった接続語を活用すること。

A	高い水準で二つの条件を満たしている。	C	二つの条件を満たしていない。
B	二つの条件を満たしている。		

【C】(二)つの条件を満たしていない) ↓「条件1」の不足(五人)

・私たちは、何もしていないのに時間が経っていくのがわかる。【そ
れは、知らぬ間に時間の流れの感覚を体が覚え、脳の動き自身が時間
を意識するように鍛えられているからである。【つまり、ちょっとした
変化を通して時間を感じ取ったり、前後の差異を測って時間の長短
を推測しているからだ。それらは音楽のように時間の流れを最も忠
実に表現している。】

【B】(二)つの条件を満たしている) (二十八人)

・私たちは、時間はすべての人に共通していて、客観的に存在して
いると思っている。【なぜなら、時計という手段で客観的に流れる時間
を表し、目に見えるようにしているからである。【しかし、アインシュ
タインは誰もが同じ時間を共有しているわけではないことを発見し
た。【つまり動物によって一秒間の心拍数が違うように、時間の流れ
る速さは人によって違うが、人間は過去に流れた時間も復元すること
ができる唯一の動物だと言える。】

【A】(高い水準で二つの条件を満たしている) (三人)

・人間は時計という手段で同じ時間を共有しながら生活してい
る。【しかし、アインシュタインは人が運動していると時間が流れる速
さが異なることを発見し、人ごとに違った速さで動く時計を持つて
いると考えた。【とはいっても、順々に証拠を示されると億年や万年
という時間が経過したことが分かる。【つまり、人間は時間を主観的に
も客観的にも捉えることができ、過去に流れた時間を復元すること

ができる唯一の動物だと言える。

・「時間とは何か」という問いに対する著者の解答は、その時間がど
のようなものかによって変化している。【例えば「日常的な時間」につ
いて考えると、時間とは主観的に流れていて、それぞれ違った時間
感覚で生きていると言えるだろう。【しかし、「歴史的に積み上げられ
た時間」については、真逆のことも述べている。我々は順々に証拠
を示されると長い時間が経過したことが分かる。【つまり、時間を客観
的に捉えることも可能だ」というのだ。

(二)「書き換え」を行うパフォーマンス課題の実践

【単元名】筆者の主張が分かりやすく伝わるように「絵本」の文章を
工夫して書いてみよう。

【教材】大西健夫「地球を旅する水の話」(『新編 現代の国語』数研
出版)

【学年・科目】普通科 一学年(三十六人) 「現代の国語」

【単元目標】

① 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確
さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や
言葉使いについて理解し、使うことができる。【知識及び技能】(1)

イ

② 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めることができる。【思考力、判断力、表現力等】 C(1)イ

③ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

【言語活動】

異なる形式で書かれた複数の文章や、図表等を伴う文章を読み、理解したことや解釈したことをまとめて発表したり、他の形式の文章に書き換えたりする活動。C(2)イ

【単元の評価基準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉使いについて	「読むこと」において、目的に応じて、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、	学習課題に沿って絵本の文章を書くことを通して、文章の構成や論理の展開などについて評価しながら、粘り強く、自分の考えを深めようと

て理解し、使っている。自分の考えを深めてしている。

【単元計画】

次	学習活動	指導上の留意点	評価基準・評価方法等
第一次 (二時) 五時)	・意味段落(第一〜四段落)ごとに、筆者がどのように話題や主張を展開しているかを捉える。	・言い換え表現や接続語、具体例と主張の関係などに着目させながら、読み進める。	【知識・技能】 【思考・判断・表現】(ノート、観察法)
第二次 (六時)	・絵本の文章と教科書本文とを見比べながら、絵本の文章の特徴について Jamboard でまとめ、発表する。	・教科書本文と比べやすいと思われる絵本のページを配布する。 ・六班(六人)編成で Jamboard に取り組ませ、各班に発表させる。	【知識・技能】(Google Jamboard) 観察法)
第三次 (七時) 八時)	・パフォーマンス課題に取り組み、書き終わったら、感想を記入する。 ・書き終わった課題	・評価コメントを付け合う前に、再度パフォーマンス課題に取り組み	【思考・判断・表現】主体的に学習に取り組む態度(パフォーマンス)

<p>題を四人で話し読みし、評価コメントを付け合う。</p> <p>・評価コメントを受けての感想を記入した上で、評価コメントを基に、パフォーマンス課題に再度取り組む。</p>	<p>とを知らせ、改善点を記入するように促す。</p> <p>・パフォーマンス課題の返却の際に、まとめのプリントを配布し、フィードバックを行う。</p>	<p>課題、振り返りの記録)</p>
---	--	--------------------

【パフォーマンス課題】

◆ あなたは、小学校の先生から「低学年の児童向けに、自分たちと水の関係がよく分かる話を紹介してほしい」と頼まれました。そしてその後「どうしようか」と考えるうちに、最近授業で学習した「地球を旅する水の話」のことが、ふと頭に思い浮かびます。しかし、この話は、高校生向けで小学校低学年の児童には、ちょっと難しすぎるように思いました。けれども、諦めきれないあなたがインターネットで調べてみると、この話が、『地球を旅する水のはなし』という絵本の解説文であることが判明します。そこで、あなたは、その絵本をベースにして紹介を考えてみることにしました。次に挙げる【条件1・2】を満たすように、絵本のページの空欄部分に当てはまる文章を考えて書

きなさい。(5)

条件1…教科書では「クレオパトラの最期の吐息に含まれていた空気の一部をあなたが吸い込む確率」という例が用いられていましたが、小学校低学年の児童には分かりにくいはずですので他の例を挙げて説明しましょう。

条件2…絵本の文章の特徴(①絵と文章が関連しあっている・②表記が分かりやすいように工夫されている 等)を生かした表現を考えて、書いてみましょう。

A	B	C
高い水準で2つの条件を満たしている。	2つの条件を満たしている。	2つの条件を満たしていない。

【C】(二つの条件を満たしていない) (最終的には0人)
 ↓【B】(二つの条件を満たしている) (19人)

・鳥がずとずととおくから運んできた水みづかもしれない。
 雨あめでぬれたもみじのはっぱといっしょにとんでいった水みづかもしれない。

〈書き終わっての感想〉
 小学生の子を想像しながら考えるのは難しかったが、ふり仮名を

ふったり、改行することで理解しやすいかなと思った。内容が同じようなことになってしまったので他の視点から水になげられるようにするとよいのかと思った。

〈評価コメント〉

・絵と関連づけられていて良い。低学年でも分かりやすい表現で読みやすい。場所だけじゃなく時間もこえていることを説明してみても良いと思う。
・絵から関連づけて例を作っていて良い。時間ともつながっているところも書いた方が良いと思う。

・二つの例がちゃんと絵に関連していて◎ ふりがなもちゃんとふられているし、字を書くバランスがきれい！言葉がやさしいよ◎

〈他の人のコメントを受けての感想〉

今の世界の中だけではなく、昔から時間を超えてつながっていることを書くこと解説により近づくことが分かった。

↓鳥がずっとずっと遠くから運んできた水かもしれない。
ずつとずつと昔に降った雨が時間をこえて流れてきた水かもしれない。

↓【A（高い水準で二つの条件を満たしている）】〈7人〉

・もしかすると、今あなたが飲んでいる水も

とおいむかし、地球で生活していた海の恐竜が泳いだ水かもしれない。
水はそれほど長い時間、いろいろな場所を旅をしている。

〈書き終わっての感想〉

ポイント…絵にたくさん動物が描かれているので有名な昔の生き物を例にした。

反省点…海の恐竜の具体的な名前が分からなかった。

〈評価コメント〉

・擬音？ くるくるとか、そういうの使ってみてもいいと思う。例えがいいと思う。
・例えがとっても分かりやすくて風景が想像しやすかった。

〈他の人のコメントを受けての感想〉

低学年の子が読んで楽しいようにもつとやわらかい表現にしたいと思った。例えはほめてもらったからそのままにしたい！

↓もしかすると、今君が飲んでいる水も
とおいむかし、地球に住んでいた海の恐竜たちが元気に泳いでいた水かもしれない。
水はずーっと地球のいろんな場所を旅している。

三 実践の分析と今後の課題

3. 実践の分析と今後の課題

1つ目の「要約」の実践と2つ目の「書き換え」の実践とを比べると、以下のことが言えるだろう。

- ① 目的や対象、状況などを盛り込んだシナリオを設定した方が、生徒のモチベーションが上がり、相互評価の際の指摘の観点がはつきりする。
- ② パフォーマンス課題で満たすことを求める条件に関して、パフォーマンス課題に取り組み前に取り立てて指導をする（考えさせておく）ことで、課題で押さえないといけないポイントがはつきりし、課した条件を達成する生徒の割合が増える。
- ③ パフォーマンス課題を一通りやり終えた後に、他の生徒と回し読みをし、相互評価をしあう活動を設定することで、自らの不足している部分や改善すべき点に気づきやすくなる。そしてさらに、再度パフォーマンス課題に取り組ませることができれば、C評価から抜け出したり、評価が一段階上がったりする生徒が出てくる。

これらの点に関しては、質疑応答の際に、賛同する旨の意見を伺うことができた。また、研究協議の論点を提示することを意図して、

新課程に関する今後の課題として以下の二点を挙げた。

- ① 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の扱い（定期考査の扱い）をどうするか。
- ② 実質的な科目単位数（特に古典を取り扱う時間）の減少にどう対応するか。

①に関しては、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域でパフォーマンス課題を実施するとなれば、授業時間数がかかりかかることが予想される。しかし、それは同時に、定期考査で出題するような文章がなくなることを意味するようと思われる。所属校の国語科のシラバスでは、定期考査の割合を6割、パフォーマンス課題の割合を2割で評価すると設定しているため、定期考査をやらなければいけないが、その場合、それらの領域のパフォーマンス課題に取り組んでいる期間の定期考査（例えば中間考査）をなしにして、「読むこと」の領域をやった期間の定期考査（例えば期末考査）で評価するといった芸術科目的な扱いをしていく必要があるのではないかと考えている。また、質疑応答では「事前に予告しておく形で、パフォーマンス課題に準じた問題を定期考査で出題することは可能なのではないか」といった意見を頂いたが、五十分という時間制限のある定期考査で、難易度の高いパフォーマンス課題に取り組むことは、生徒状況によっては、かなり厳しいものがあるのではないかと思われる。

②に関しては、所属校では昨年度まで「国語総合（現代文）」を三

「単位」、「国語総合（古典）」を二単位の計五単位で「国語総合」を実施していたが、今年度は、カリキュラム編成上の都合で「現代の国語」（二単位）、「言語文化」（二単位）という標準単位数通りの四単位になってしまった。特に古典を取り扱う時間が実質二単位から1.5単位程度に減少することとなった（「言語文化」で近現代文学も扱うことを考えると、そのような計算になる……）が、普通科で大学進学を希望する生徒がいる以上、用言の活用や助動詞等の古典文法を扱うことも外すことができない。そのため、現状、傍注資料的なプリントで時間短縮を図ってはいるものの、一学期終了段階で漢文に入ることはできなかった（三浦哲郎「とんかつ」↓用言の活用↓「見のそら寝」【助動詞に触れながら内容読解メインで】↓高名の本登り）【用言の文法的な説明の練習＋助動詞に触れながら内容読解】の半分ほどでタイムアップ）。ただ、そのような時間の厳しい制約が避けられない以上、今まで通りのペースを進めていくことは不可能である。よって、それぞれの単元で押さえておくべき要素の習得に焦点化した指導を行い、後続の「古典探求」や「文学国語」に繋げていくことが必要になってくるだろう。

四 引用・参考文献

- ・西岡加名恵 編著『高等学校 教科と探究の新しい学習評価―観点別評価とパフォーマンス評価実践事例集―』（二〇二〇年、学事出版）
- ・西岡加名恵・石井英真 編著『教科の「深い学び」を実現するパ

フォーマンス評価―見方・考え方」をどう育てるか』（二〇一九年、日本標準）

- ・西岡加名恵「教科と総合学習のカリキュラム設計 パフォーマンス評価をどう活かすか」（二〇一六年、図書文化社）
- ・国立教育政策研究所『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（高等学校 国語）』（二〇二二年八月）
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』（二〇一九年、東洋館出版社）
- ・「地球を旅する水のはなし」（大西健夫・龍澤彩文、曾我市太郎 絵、二〇一七年、福音館書店）
- ・大滝一登『高校国語 新学習指導要領をふまえた授業づくり 理論編』（二〇一八年、明治書院）
- ・大滝一登 編著『高校国語 新学習指導要領をふまえた授業づくり 実践編 資質・能力を育成する14事例』（二〇一九年、明治書院）
- ・大滝一登 編著『高校国語 新学習指導要領をふまえた授業づくり 評価編 観点別学習状況の評価をいかす』（二〇二二年、明治書院）
- ・「特集 変わる高校国語×変わる授業づくり」（『教育科学国語教育』二〇二二年三月号、明治図書出版）

注

- (1) 西岡加名恵 編著『高等学校 教科と探究の新しい学習評価―観点別評価とパフォーマンス評価実践事例集―』（二〇二〇年、学事出版）九頁

(2) 西岡加名恵・石井英真 編著『教科の「深い学び」を実現する
パフォーマンス評価―見方・考え方―をどう育てるか』(二〇
一九年、日本標準) 十二頁―十四頁

(3) 国立教育政策研究所『指導と評価の一体化』のための学習評
価に関する参考資料(高等学校 国語) (二〇二一年八月)
十一―十一頁

(4) 使用した絵本は『地球を旅する水のはなし』(大西健夫・龍澤
彩文、曽我市太郎 絵、二〇一七年、福音館書店) であり、教
科書本文と比較して Jamboard にまとめる活動では十六頁―十七
頁を、パフォーマンス課題では三十頁―三十一頁を用いた。

(5) 空欄部分の前には「森もりから海うみへ、海うみから空そらへ、空そらから地面じめん
へ……水みづは、かたときも休やすまずに地球ちきゅうをめぐっている。／は
るかむかしから、とぎれることなく、ずっと。」という文章があ
り、パフォーマンス課題にも載せている。また、パフォーマン
ス課題で空欄とした部分には、本来「きょう、ぼくが飲のんだ水みず
／マンモスの背中せなかをぬらした雨あめだったかもしれない。／南極なんきょく
で水みずになって、見知らぬ国くににさく花はなの中なかをとおって、／ここ
まできたのかもしれない。」という文章が入っている。なお、タ
ブレットを使って、この文章をインターネットで見つけた生徒
も何人かいたが、オリジナリティを加える段階で、総じて苦戦
することとなった。

(広島県立油木高等学校)